



世界の円満
人類の福祉

THE ENPUKU

5月

2021 No.488



世界法民連帯 円福友の会

円福友の会入会のすすめ

1食1円のSABA運動で世界の平和に尽くしましょう。

SABAとは、禅寺の僧堂でお食事の前に、七粒ほどのご飯をお膳のすみに取っておき、後で小鳥に施す「生飯(さば)」というお作法のことです。

これを日本の皆さんの1食1円のSABAとして、アジアの貧しい国々の子ども達のために学校建築(教育)や、井戸やトイレの設置(環境衛生向上)を支援する、国際ボランティア資金の運動です。1食1円ならどなたにもできます。塵も積もれば山となるように、皆さんの御協力をお願いする大きな愛の運動です。(この運動は、特定の政党や宗教や思想に関係のない、非営利の国民運動です。)

綴じ込みの郵便振替用紙を使い年会費やSABA運動等の協力金をお送りください。お送りいただいた皆様には毎月『圓福』と『おもしろやり』をお送りし、円福友の会の活動と円福寺愛育園の子どもたちの様子をご報告いたします。

表紙の写真

2014年にプラチープ財団を訪問した時に、優秀な学生の表彰式がありました。

表彰が始まる前に、余興でタイのダンスや歌の披露がありました。

写真は確かタイダンス三番目の方だったと思います。

私の隣に座った第5代理事長のサン・ハッティラット氏が笑いながら、あれは男だよとささやいてくれました。

タイダンスも、表彰式もとっても印象に残るものでした。

5月号の内容

にこにこ法話 天上天下唯我独尊	1 p
教育里親—スラムの天使の歩みと闘い(その3)	3 p
途上国開発協力こぼれ話 ⑩水の飲み方 パキスタンの農村にて	7 p
2020年度 円福友の会決算	12 p
2021年度 円福友の会予算	13 p
大心 圓福	14 p



信州は五月八日が
月遅れの釈尊降誕会
(お花まつり)です。

圓福寺では、愛育
園や村の子どもたち
がお花をもってお寺

に集まり、白木づくりの花御堂の屋根を、

ルンビニの花園の

ようにお花で飾って

くれます。そのあと、

花御堂を本堂の中央

に据えて、お釈迦様がお生まれになった

ときに竜王が降らせた甘露の雨に做っ

て、みんなで甘茶をかけてあげます。

子どものころのお花まつりで、父から、

生まれたばかりのお釈迦さまが七歩歩い

て、表題の言葉を宣言されたと聞きまし

た。「天にも地にも我独り尊し」なんて、

天下で俺だけが偉いんだと、ずいぶん人

天上天下唯我独尊

を見下した言い方だなあと、秘かに思っ
ていました。(誰にも話しません。お釈

迦さまごめんなさい)でもお釈迦さまは、

この世に生まれるとは、誰もがこの世で

たつた一つのかげがえのない命をいただ

いたことであると示されたを知って、す

ごいなあ、本当にその通りだと思いまし

た。かけがえのない

命の生涯を無駄に過

ごすことは許されま

せんね。申し訳ない

ことです。

愛育園の仕事に携わったころ、子ども

たちにこの心がとても弱いことを感しま

した。「我一人尊し」という心がないと、

「良い生涯を送ろう」と今の生活を頑張

れないのでした。自分さえよければいい、

今さえよければいいと余計なことを考

え、余計なことをやる。悪いことをやる。

ニコニコ法話

悪い心の赴くままに人に迷惑をかける。俗人閑居為不善です。どうやって、先生をパシリに使うか、先生にやらせるか、先生の言うことを聞かない範囲を拡げるか、言いがかりをつけるか、見つからないように悪いことをするか、人の所為にするか、そんなことつきり考えているのでした。

こんなことがありました。

そのころ、東北信児童福祉施設連盟主催の運動会がありました。運動会には馬拉ソンがあります。その子は、朝早く起きて走っていました。普段は小さな子をはじめ、羽振りを効かせている子でした。それが、人に見つからないように、知られないように練習していました。すごいなあと見ていました。その甲斐があつて、運動会の馬拉ソンで五位に入賞しました。賞状が出ます。みんなの前で賞状を

渡しました。なんと彼はその賞状を「こんなものいらねえ」と投げ捨て、拳句の果ては破つてしまったのです。

「天上天下唯我独尊」の強い心を持っているほど、自分を大切にして困難に挑戦するように思います。自己実現の努力を惜しまないと思います。かげがえのない生涯の一瞬一瞬を大切に全力で過ごすと思います。その積み重ねが、「己に従い行くは只是れ善悪業等のみなり」となるのではないのでしょうか。

さあ、どうしたら「天上天下唯我独尊」の心を持つようになるのでしょうか。このことが愛育園の子育ての要です。十三年間の努力が実つて、子どもたちが日々の生活を頑張るようになりました。でもまだ心は弱いのです。愛育園の子育てを温かく見守ってくださいね。

教育里親

「スラムの天使」の歩みと闘い（その三）

今（二〇一八年）、財団設立四十周年を迎えられるのも、タイ国内外を問わず、政府、会社、百貨店、商店、一般の人々に至るまで多方面からのご慈悲とスラム問題へのご理解のおかげだと思っています。私は、佛暦二五二一年（西暦一九七八年）にフィリピンのラモン・マグサイサイ賞の賞金として二〇、〇〇〇ドル（四十万バーツ）をいただきました。この金額は当時の首都にあるメゾネット家屋四棟分の購入価格に値します。私がこの賞金をすべて貧しい子どもたちのための財団創設資金に充てると発表すると、たちまち募金が集まり、募金総額は賞金の三倍にも達しました。子どもたちに手を差し伸べよ

うとすればするほど、多くの支援が集まり、文字通り「与えてこそ得られる」との教えそのものでした。

私をラモン・マグサイサイ賞の公共福祉部門に推薦してくださった故ウドム・イエئلディー氏は、私がこの賞金を得たときに「賞金はすべて子どもたちのために使いなさい、他の財団でよくあるような、貯金してその利息を期待するのではなく、多くの子どもたちのために、今、使わなくてはならない。子どもたちのために使えば、新しいお金がまた入り、そのお金でもっと多くの子どもたちを助けることができる」と助言してくださったのです。それから四十年。あの時のウドム・イエئلディー氏の「与えてこそ得られる」という言葉を、財団は身をもって証明することができた誇りに思っています。

「二日一バツ学校」は、開始してから八年たった一九七六年に公立の小学校に発展し、のちに中学校も併設されて現在は「チュ

ムチョン・ムーバン・バツタナー小中学校」として財団に隣接して建っています。この間、私自身は、教員試験に合格して正式にバンコク都の公務員に採用され、同校の初代校長を四年半務めました。しかし、やがて学校は軌道に乗り、学校教育に精通している先生ならば誰でも校長先生の任務を果たせるけれど、スラムの子どもたちや住民のために働く人は少ないだろうと判断して辞職しました。そして初代の理事長として当時首相を務めていたクリアンサック・チャマナン陸軍大将を迎え、私は財団の事務局長に就任しました。二代目の理事長はパオ・サーラシン警察大将、三代目は建築家のスメートル・チュムサーイ・ナ・アユタヤー博士、そして現在の理事長はサン・

ハッティラット医師（マヒドン大学名誉教授・医学博士）です。

財団はこれまで数多くの事業を手掛けて、軌道に乗せてきました。具体例をいくつか挙げてみましょう。

- 財団設立から最初の五年間に十五か所のスラムに幼稚園を開設
- スラム住民の住民登録や子どもの出生証明の調査・登録のために国の登録管理局と連携
- 貧しい子どもたちがより高い教育を受けられるように奨学金を支給する教育里親事業部を設置
- 貧しい子どもたちもそろって食べられる給食支援
- 立ち退きを命じられているスラム住民の支援
- 麻薬犯罪から子どもを守る支援

以上のプロジェクトが示すように、財団の仕事は、どれも貧しい人々が直面している問題に即しています。私たち財団スタッフは、まず問題の発端や原因をしつかり掴み、徐々に解決して、それらを持続可能なシステム化へとつないで行けるよう取り組んでいます。いくつか実例を挙げてみます。

一・教育奨学金に関しては当初、財団は初等教育を受ける子どもたちのための奨学金探しに走り回りましたが、現在はバンコク都をはじめ地方の自治体も初等教育の重要性を認識し次第に奨学金の支給も行われるようになってきました。両親が貧しくて制服や学用品、給食代が払えない子どもたちには、学校が自治体に必要な教育費を申請できる条件が整えられました。これらは、一九九六年のバンコク都知事選挙に当選したピチット・ラッタナ

博士が「貧しい子どもたちのために学用品や給食代を支給する」と公約に掲げたことが始まりで現在に至っています。

二・火災に関しては、財団に小型消防車などを備えた「クロントイ消防・救急隊」を設けて日夜警戒にあたり、スラム内のコミュニティごとや学校で火災予防のトレーニングを実施しています。それぞれのコミュニティに消防ボランティアもいます。消防・救急隊は他のスラムや住宅密集地での火災にも救援出動し、特に狭い路地での消火や救急活動に貢献しています。

三・立ち退き問題に関しては、地主の無責任な立ち退き要求で長年築いてきたコミュニティが解体されそうなケースには、政府関係者にも話し合いに入ってもらい、土地を分け合うなどの対策を講じて問題

がエスカレートしないように働きかけて
います。
(続く)



二〇一四年にプラティーブ財団を訪問した
時に、優秀な学生の表彰式がありました。写
真のプラティーブ先生の隣の方が、現在の理
事長のサン・ハッティラット医師（マヒドン
大学名誉教授・医学博士）でした。私は式典
で名誉にもこの方の隣に座らせていただいた
のですが、英語が理解できずに、プラティー
ブ財団の理事長であることを今初めて知りま
した。



プラティーブ財団 第5代理事長
サン・ハッティラット氏
在任期間 2010年～現在
タイ国を代表する救急医療の専門医師
マヒドン大学医学部名誉教授

途上国開発協力こぼれ話

⑪ 水の飲み方 パキスタンの農村にて

円福友の会顧問 吉田恒昭

前回では、砂漠の民として名高いヨルダンのベドウィン族酋長からの招きで野外のテントの下で「羊の脳味噌料理」を頂く話をしました。途上国開発の現場では関係者間での相互信頼醸成を目的とした供応接待（会食パーティー）がつきものです。この会食を共にするという習慣は、異なつた部族間、民族間あるいは国家間の共存共栄を願望する行為で、供応会場の裏の厨房から運ばれてくる食事には決して毒などは盛られていないと言う信頼の証です。ですから、供応会食の席で目の前に出された料理に手を付けない所作は、会食のホストを疑うということを意味して、誠に不遜非礼となつてしまいます。このこと

をわきまえていないと、会食の目的である信頼醸成が真逆の相互不信と敵対関係に陥つてしまうことになりかねません。異文化間での会食とは、実は恐ろしい緊張を伴う場面でもあるのですが、古から異民族間の信頼醸成と平和共存に大きな役割を担ってきたとも言えるのです。今回は、パキスタンの農村開発プロジェクト（主に灌漑水路と道路づくり）のために貧しい村を訪れた時の話です。

その村では、大人も子供も村に灌漑用水路と道路ができる話でもちきりで、私たち村落開発調査団の四人をこぞつて待ち受けていました。その証拠に、私たちの四輪駆動車が村に入っていくと、村人は総出で鐘や太鼓を鳴らして、まるでお祭りのようでした。

途上国の農村調査を長く続けていますと、村のインフラ状況や村人の耕す田畑や家庭の台所などを観察することで、その村の経済社会指標の相対的概要を把握できるようになつ

てきます。例えば、就学年齢の児童が裸足で昼間から野良に出て家畜の見張りをしていれば、児童の就学率は貧困ゆえに相当に低いと判断できますし、幼児たちに目ヤニが多く皮膚病が手足に目立つようであれば栄養不良が蔓延していて、給水事情にも問題があることが一目瞭然です。村人の家の台所に置いてある炊事用具を覗かせてもらえば、その家族の所得水準が推測できます。私が頻繁にアジアの農村を歩いていた一九八〇年代では、農家の屋根が貧弱な草木で葺かれていれば年間所得は一人当たり一〇〇\$前後の生存限界の貧しい家族と推測できます。トタン屋根が普及し始める村では二〇〇\$以上になりつつあるようでした。農村踏査は開発（所得・健康・教育の向上）のための喫緊の課題を確かめ、最も優先的な解決方法を見出すことです。わずか数日ばかりの視察でも専門家（農業、水利、道路、コミュニティ等）には見えてくる

ものが沢山あります。農民の生産活動状況、コミュニティの機能・能力、村の意思決定の構造などを観察し、彼らの田畑を見ながらのインタビュや村のリーダーたちとの議論を通して具体的な解決策を提案することになります。円福友の会がカンボジアで支援しているエコ村でも支援活動を始める前には、村人の家庭調査、生計分析、リーダーたちとの対話を通してのコミュニティの能力などの調査に時間を費やしました。そして井戸支援（水）こそが全ての開発（所得・健康・教育向上）の出发点（鍵）であると村にリーダーに提案して、支援活動を始めました。エコ村も当初そうであったように、農村開発の現場は貧しい農村ですから、現場に至るまでは悪路の連続で、電気も水道もなく、満足な宿舎・宿屋もなく、食事もひどいものですが、村人と共に未来を切り開くという希望を共有することで、小さな支援活動でも支援する側も支援さ

れる側も、大きな喜びを分かち合うことができます。

一通り村の視察を終えた頃に、村長さんは調査団を村の広場に迎え入れてくれました。筵（むしろ）が敷かれた宴席には昼食（会食）が用意されています。各自が座る席の前には、鶏肉入り香味炊き込みご飯（ビリヤニ）が小皿に盛られ、飯の上に目玉焼きが一つポツンと乗せられています。この村の貧しい生活からすれば、間違いなく精一杯のご馳走メニューに違いありません。いつの間にか、広場に集まった子供たちは調査団一行の皿に盛られたビリヤニご飯と目玉焼を思いつめたように見つめています。村人たちにとっては何に一度あるかないかのご馳走に相違ありません。このように子供たちに凝視されながらご馳走を口に運ぶのは心穏やかではなく、味覚を楽しむ余裕などありません。

何ともぎこちない光景の中で、調査団に同

行している政府のお役人の通訳を介して、村長さんがスピーチを始めます。このような場面での挨拶はどこでも同じで、「この調査団を招いたのは村長の私で、これから村は大いに発展する、次の選挙でも私に投票してほしい」となります。調査団が集票の道具にされてしまうのは心外なのですが、ここはぐっと我慢して、乾杯となりますが、パキスタンはイスラム国ですのでアルコール類はタブーです。ビリヤニの小皿の横に置かれているのはガラスコップに入った少しばかり濁った水です。これで乾杯となります。私たちのような外国人の調査団員にとって、生水は極力避けなければいけません。調査



田植え、パキスタン、1980年

団員はコップの淵にそっと口を近づけるだけで乾杯をやり過ぐすことになります。

しかし、私は「わが青春の旅」での放浪生活を通して、少しばかり濁った水を飲む「極意」を知っているのです、ここぞとばかりに披露することになります。その極意は私の体験から会得したともいうべき秘術で「自己暗示による生体反応」を利用するのです。先ずはコップの中の少し濁った水を見ながら、自分の胃に念じるように語りかけます「わが胃よ、これから少しバイキンが入った水が入っていくので、胃酸をフルに出して滅菌をしてくれ・・・」と、そして、唾液をフルに出しながらゆつくりと水を呑み込むのです。この私の所作を見ている村人たち、特に子供たちの表情の変化は忘れ難いものでした。私がコップの水を少しずつ飲みこむのに合わせて、子供たちの怪訝（けげん）な表情はホッと胸のつかえを解き放つようにニコツと嬉しそうな

表情に変わります。この値千金の一瞬の表情の変化は、私がぐくりと飲んだ「村の飲み水」から生まれたもののなのです。私が村の水を飲み、ビリヤニを美味しそうに食べる所作を見て微笑む村人と子供たちの姿が忘れられません。信義が伝わった喜びの溢れる光景でした。

この私の秘術について、当時マニラの自宅の近所に住んでいたWHOの著名な感染症専門家に話したことがあります。その方によると、この秘術には科学的合理性があるとのことでした。身体には暗示・念力に呼応する反応力があり、とりわけ胃腸は心理的ストレスに敏感ですから、自己暗示にかなり反応するのだそうです。加えて、私の経験では途上国の村人は自ら飲む水に関しては例外なく煮沸しているものなのです。濁って見える水であつても存外にバイ菌は少ないと考えて良いのです。もし飲食後に感覚的に不安を感じた時には、もう一つのリスク回避策として、軍

医森陽外が明治初期に軍用薬とし、日露戦争では「忠勇征露丸（正露丸）」として兵士の常備薬となったクレオソート」をそっと口を含むことにしています。幸いにこれまで途上国農村調査で飲み水と食事で体調を崩したことは一度もありません。私の念力秘術は村人との信義を瞬時に獲得するのにも有効で、それゆえに村人は調査団の意見をしっかりと聞いてくれるようになるものと自負しています。

この自己暗示（念力）で少しばかり汚れた水を飲む話は私の大学の講義（国際協力論）の一コマにもなっていました。「念ずれば花開く」を広めたのは愛媛に住んでいた仏教詩人



ミャンマーの田植え 1978年

の坂村真民さんです。彼は円福友の会のカンボジア・ツアーで大活躍をしてくれている福鹿実さんが宇和島東高校に在籍していた時期に同校の国語教師をしていたそうです。

「念ずれば花開く」とは人生行路において日々強く念じていれば、心と行動は自ずと念じる先にある人生の目的ともいうべきものに向かうもので、志の達成には不可欠ともいうべきものなのです。念ずることは、老いも若きも目線を高く保ち、遠くに立つ自分の理想の姿を思い描きながら、今の一瞬を精一杯生かせることだ
と思う今日この頃です。



ミャンマーの小坊主 1980 年頃、
誦経とは念ずること。

2020年度 円福友の会決算

収入決算額	13,228,739
支出決算額	6,466,924
差引残額	6,761,815 (2021年度へ繰越)

収入の部	r1 決算	r2 決算	差 (r2-r1)	備考
繰越金	4,545,622	4,948,887	403,265	
会費	1,939,000	2,014,900	75,900	
S A B A 資金	2,682,435	2,972,239	289,804	
校舎建設資金	6,269,000	1,300,613	▲ 4,968,387	
エコ村支援	240,300	432,100	191,800	
スラム奨学生支援		36,000	36,000	
遺族見舞金	1,422,533		▲ 1,422,533	
義捐金	1,020,000	78,000	▲ 942,000	
大黒天祈祷料	167,000	814,000	647,000	祈祷料友の会振込
おもいやり	308,000	539,000	231,000	
その他	36,346	93,000	56,654	
収入合計	18,630,236	13,228,739	▲ 5,401,497	

支出の部	r1 決算	r2 決算	差 (r2-r1)	備考
カンボジア支援関係	8,332,633	1,297,218	▲ 7,035,415	
校舎建設	6,007,534	300,000	▲ 5,707,534	寄付者名金属板
エコ村支援	733,537	997,218	263,681	井戸、キムさん旅費等
遺族見舞金	1,394,016		▲ 1,394,016	
諸費用	197,546		▲ 197,546	
諸団体へ寄付	1,143,500	654,000	▲ 489,500	
タイ・スラム奨学生支援	1001500	500,000	▲ 501,500	
チェルノブイリ医療支援	30,000	30,000	0	
SVA協力金	112,000	124,000	12,000	
事務経費	2,846,364	2,955,766	109,402	
圓福印刷製本費	1,658,640	1,781,450	122,810	
圓福・礼状送料	715,368	709,073	▲ 6,295	
振替料金	110,903	107,805	▲ 3,098	
事務用品・コピー代	234,803	231,438	▲ 3,365	
発送日当	126,650	126,000	▲ 650	
その他	1,308,200	1,559,940	251,740	
義捐金	934,000	200,000	▲ 734,000	
おもいやり	308,000	674,000	366,000	
大黒天祈祷料		606,440		友の会振込祈祷料
その他	66,200	79,500	13,300	大黒天会計へ 太平観音堂会費等
支出計	13,630,697	6,466,924	▲ 7,163,773	
次期繰越金	4,999,539	6,761,815	1,762,276	

2021 年度 円福友の会 予算

収入予算額 (円) 13,291,815

支出予算額 (円) 13,291,815

差引額 (円) 0

収入の部	r2 予算	r3 予算	差 (r3-r2)	備考
繰越金	4,948,887	6,761,815	1,812,928	
会費	1,900,000	2,000,000	100,000	
S A B A 資金	2,500,000	3,000,000	500,000	
エコ村支援	250,000	400,000	150,000	
スラム奨学生支援		100,000	100,000	
義捐金	200,000	200,000	0	
大黒天祈禱料	200,000	200,000	0	
おもいやり		600,000	600,000	
その他	30,000	30,000	0	
収入合計	10,028,887	13,291,815	3,262,928	

支出の部	r2 予算	r3 予算	差 (r3-r2)	
カンボジア支援関係	4,600,000	7,600,000	3,000,000	
校舎等建設基金	3,000,000	6,000,000	3,000,000	基金として予算に含めた
エコ村支援	1,000,000	1,000,000	0	井戸、ソファット旅費等
その他費用	600,000	600,000	0	
諸団体支援協力金	752,000	754,000	2,000	
タイ・スラム奨学生支援	600,000	600,000	0	ブラティープ財団行事含
チェルノブイリ医療支援	30,000	30,000	0	
SVA協力金	122,000	124,000	2,000	
事務経費	3,170,000	3,270,000	100,000	
圓福印刷製本費	1,800,000	1,900,000	100,000	
圓福・礼状送料	750,000	750,000	0	
振替料金	120,000	120,000	0	
事務用品・コピー代	350,000	350,000	0	
発送日当	150,000	150,000	0	
その他	1,506,887	1,667,815	160,928	
義捐金	200,000	200,000	0	
その他支援金	50,000	50,000	0	
おもいやり		600,000	600,000	
その他費用		50,000	50,000	
予備費	1,256,887	767,815	▲ 489,072	
支出率	10,028,887	13,291,815	3,262,928	

大心 圓福

自身が生まれ変わるといふこと

大本山永平寺安居を終えて

藤本 大心

第二回目になります。先月に続きまして永平寺安居を決意するに至った経緯を書かせていただければと思います。私が円福幼稚園で務めるようになって園長職に就いてからは毎日ひたすらに新しいことや最新の教育を取り入れて発信していこうと考えて進んでいたのですが、自分だけ空回りしてしまうことが多かったような気がします。自分自身も自信が持てなかったからだと思いますが、何か問題が起きると常に周りの声や目をとんでも気にしていました。この時の自分の状態を上手に

言葉で表すのは難しいのですが、永平寺から帰ってきたときに「自分は我が強かったな」と感じたのです。私の場合の我といいますと、「自分の思うようにしたい、自分のやり方でありたい」や、「自分に都合の良いような解釈をする」だったのかと思いますが、その様にしているのは周りとは和して上手に進めることは難しかったのだらうと思います。また、何か問題が起きてしまった時など、自分で何とかできるほどの自信と力がまだ足りていなかったのでしょうか。自分の判断に自信が持てず、自分の軸が定まらないで常に心が揺れていました。当時は自分にも意地もありそんな自分を認めたくないわけですから、常に周りを気にしながら自分の心が定まらないという状態で相当無理をしていたのかもしれない。そんな中、平成三十年十二月ごろ、幼稚園で永平寺について父と話をしました。どうすれば自信が持って幼稚園を守っていけるのだろうか

かよくよく考えたのでしよう。僧侶でなければ円福幼稚園の根底の宗教教育を守っていませんから、いずれ誰かに頼まなくてはならなくなってしまうことはわかっていました。そんな中で自分の悩んでいること何もかも全て永平寺に行くことで解決できるのではないかと考えるようになりました。この頃の私がノートにメモを残した物がありまして、そこにはこう書かれていました。永平寺に一年行くメリットは、①円福幼稚園の心の教育の柱となる仏教の話ができるようになる。②心が鍛えられ、ぶれない優しさを得る。③自分を見つめる時間を得る。④習慣力を鍛える。⑤将来の不安がなくなる。⑥円福寺を手伝えるようになる。⑦円福幼稚園をずっと守っている。そしてデメリットとしては、一年間も留守にすることで幼稚園にたくさん迷惑をかけてしまう事です。父に永平寺の話をしたとき、大変驚き、大変喜んでいました。そして

「大心から永平寺の名前が出てくるとは思わなかった。大心が永平寺に行ったらそれは一石二鳥どころではなくて一石五鳥くらいのことになる。」と言っていました。私の安居がきつかけで大きく変化が起きることを父は予測していたのでしょうか。また、「永平寺に行つて道元禅師様のお膝元で修行するという事は、お釈迦様に近づくという事で本当に素晴らしいことだよ。大心は得度（出家）をしてから来年で二十年だからこのまま何もしなければ僧侶としての資格を失うところだった。」と、その時初めて言われました。不思議と私が永平寺に向かうようになっていたのではと運命を感じました。その後円福寺にて黒い絛子が



絛子「慈忍大心」

出てきました。十九年前の得度の時、絡子の裏に「慈忍大心」と祖父が書いてくれたものです。黒い絡子は修行僧が最初につける色です。祖父はこれをつけて私が修行をすることを望んでいたのでしょう。祖父だけではなく、父も、周り方々も十九年前にその姿を思い描いたはずです。永平寺にはこれを付けて行くこうと私は決意しました。永平寺では安居の事前研修として十二月、一月、二月に二泊三日の研修を行っていました。どこかで参加すればいいのですが、応量器（食事おくりようきをいただく器）や直綴（衣）など揃ってからでなければいけません。一式を父に揃えていただき、千曲市森の禅透院の宮本一暁師に永平寺について様々な事をお聞きし、そして永平寺安居への多くの不安も聞いていただきました。二月の事前研修に参加しました。支援していただき本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

当日は永平寺の門前を歩いて通用門（一般

の人が入る門）から永平寺吉祥閣に行き、受付を済ませた後に時間がありましたので、永平寺の七堂伽藍を見学して承陽殿で手を合わせました。ここで本当に修行をするのか、大丈夫だろうかと不安が溢れました。そして研修は吉祥閣の四階で行われました。指導して下さった僧侶の皆様は長年永平寺で修行をされて安居を終えた方々でした。その姿、立ち振る舞いは当たり前のことなのですが本当に立派なお坊さんでした。数年いるとこんなにも違うのかと思う程落ち着いていらつしやいました。「威儀即仏法 作法是宗旨（いいきそくぶつぽう さほうこれしゅうし）」まさにこの言葉の通り、私も一年いればお坊さんとしての人格が自分に芽生えるのではないかと強く感じました。

長くなりましたが、また次回、事前研修の話を書かせていただきます。ありがとうございました。

感謝のお知らせ

(三月二十七日～四月二十一日)

●エコ村支援
(埼玉県)

●おもいやりの会
(長野県)

●タイスラム奨学生支援
(長野県)
(大阪府)

●大黒天奉納SABA
(長野県)

ご協力ありがとうございました。

様

六日(第一日曜日)

午前五時より

六月の参禅会

二十三日(第四日曜日)

午前八時半より

『円福』

令和3年5月号

第
四
八
八
号

定価 一五〇円

発行日 令和3年5月10日

発行人 藤本光世

発行所 円福友の会

〒388-8005 長野市篠ノ井横田円福寺

TEL(三六)一九二一〇三八一

FAX (03) 193-1962-9

○ 搬替口座

〇〇五二〇一七一六二五六

円福友の会・SABAスクール

愛の日の丸 SABA運動

カンボジア小学校校舎建設

カンボジア エコ村支援

タイ スラム街奨学生支援(教育里親)

大災害被災地支援

シャンティ国際ボランティア会協力

おもいやりの会(愛育園児童自立支援)

太平観音堂護持発展

円福友の会入会のすすめ

上記の協力金は 郵便振替 00520—7—16256

加入者 円福友の会 あてに御送金下さい

〒388-8005 長野市篠ノ井横田 円福寺内

TEL 026-292-0381

FAX 026-293-9629

<http://ryu-enpukuji.com/tomonokai/>

enpuku2@janis.or.jp